

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会(大阪府保育協議会)

令和7年2月1日

No.594



発行人 森田 信司 編集人 向井 秋久

大阪市中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001

FAX.06-6768-2426

https://www.niji-tumi.net/



おままごと
遊び

堺市
鳳西こども園

スマイルサポーター事業 園長研修会開催

12月16日、大阪府社会福祉会館で園長研修会を開催し、39人の園長・施設長にご参加いただきました。冒頭、篠崎直人委員長(地域貢献事業推進委員会)が、「1月には、会員園の8割に約3000人のスマイルサポーターが配置されることになるが、園長のご理解がなければ活動は広がらない。地域共生社会の実現に向けて、園が担う地域貢献や社会福祉法人の使命について理解を深めていただきたい」とあいさつ。

続いて、大阪府社会福祉協議会の梅木誠氏(施設福祉部長)と山下拓真氏(地域福祉部主事)が、地域住民が抱える複雑化・複合化した課題に対して市区町村で支援体制をつくる「重層的支援体制整備事業」について説明。新たな相談窓口をつくるのではなく、既存の縦割りの制度に横串を通す必要性ととも、「大阪しあわせネットワーク」や、「地域貢献委員会(施設連絡会)」で培ってきた地域貢献の実践を生かした大阪らしい支援体制「大阪モデル」を構築・推進していくと強調しました。

続いて、菊池一人委員(同委員会)から、先人が取り組んできた地域貢献事業の変遷と実績や、「生活困窮者レスキュー事業」を活用した実践事例等について紹介がありました。

研修講義では、関川芳孝氏(大阪公立大学名誉教授)が登壇。社会福祉法におけるスマイルサポーターや地域貢献事業の位置づけ、園長に求められるリーダーシップや、支援に取り組み理念をいかに組織に浸透させるかについてお話いただきました。

また、実践報告では、重見将治園長(吹田市・千里ニュータウンこども園)が、吹田市社会福祉協議会施設連絡会(吹田しあわせネットワーク)について紹介。「できる時に・できる人が・できる事から始めよう」を合言葉に、メーリングリストを活用した種別を超えた連携・協働事例や、活動を通して再確認する社会福祉法人の存在意義について話されました。

(事務局)



令和6年度保育関係資料集

電子化のご案内

調査研究委員会では、40

年以上にわたり、各市町村の保育実施状況や公立、民間保育所および認定こども園との比較表データなどを取りまとめ、「保育関係資料集」を作成し、郵送でお届けしてまいりました。しかし、より一層活用しやすい資料集を作成し、会員施設の皆さまへ迅速に資料を提供したいと考え、このたび、この冊子を電子化して発刊させていただきますこといたしました。

また、今年度は、従前の設問項目に加えて、左記4項目を新たに集計いたしております。

- ①障がい児加配職員資格要件
- ②医療的ケア児の申請数及び入所児童数
- ③子育て世帯の流入促進や流出防止施策
- ④誰でも通園制度実施施設数および補助内容

なにとぞ趣旨をご理解のうえ、本資料集をご活用いただけますようお願い申し上げます。

あげます。

なお、資料集の電子化に伴い、保育部会・保育士会ウェブサイト「にじいろつみきネット」内の「保育関係資料集ページ」のリニューアルも予定しており、利便性の向上・情報発信力の強化を図ってまいります。

最後に、本資料集の発刊に際し、情報をご提供いただきました大阪府ならびに各市町村の関係者の皆さま方に、心より御礼申し上げます。

資料集電子化のご案内と閲覧・ダウンロードURLは、令和6年12月9日にメール配信しております。
https://www.niji-tumi.net/pdf/R6_databook.pdf



※目次ページの青字項目をクリックすると、該当ページが表示される仕様になっています。

★「よい子ネット」が生まれ変わります!★

保育園と保護者をつなぐコミュニケーションツールとして、長年ご活用いただいておりますウェブ+メールシステム「よい子ネット」は、2026年から、アプリシステムに生まれ変わります。これにより、園と保護者の間で、さらなる円滑なコミュニケーションと、管理・確認が可能になります。

■メール通知からアプリ通知に変更となります

新システムでは、保護者への通知方法を、従来のメール通知からアプリ通知に変更します。園は保護者へのお知らせを一斉プッシュ通知でき、保護者はお知らせを、アプリのプッシュ通知

でタイムリーに確認できます。また、写真画像・PDFなども添付ファイルで送ることができます。

■保育ICT機能を追加します

よい子ネットにご要望の多かった①登降園管理②出欠管理③連絡帳の保育ICT機能を追加します(有料オプション)。

①登降園管理

園の入り口に設置したタブレット端末で、保護者が登降園を打刻できます。打刻の操作は、スマホでQRコードを読み込むだけと簡単です。園では、打刻履歴をダウンロードできます。

②出欠管理

保護者は園へ、欠席・遅刻・早退・昼食の有無・おやつの有無などを連絡できます。園は、登降園打刻状況と出欠連絡を一覧で確認できるため、登園状況をスムーズに把握できます。

③連絡帳

連絡帳をデジタル化することで、園と保護者間で相互に写真画像を添付して、日々のやり取りを行えます。保護

者は、いつでも家族間で情報を共有できます。

保育ICT機能については、一次保育などの予約フォーム、職員シフト作成、延長保育料の集計、子ども台帳といった機能の追加を検討しております。

■新システムリリース予定

2026年4月

*現在のよい子ネットの提供は2026年4月末をもって終了いたします。

■リリースに向けての準備

2025年春に、新システムの操作説明会を開催いたします。説明会では、新システムを操作いただき、使い勝手やさまざまな機能をご体感いただけます。

操作説明会后、試用期間を設けて、自由に操作いただけるようにし、試用期間に感じられたご意見、ご要望をアンケートで募ります。ご協力をよろしくお願いいたします。

*新システムのご提供料金は2025年秋頃に公表いたします。

操作説明会の日程、概要等につきましては、改めてご案内いたします。

今後とも「よい子ネット」をよろしくお願いいたします。(株)ラジオ関西



各地にある鬼伝説。これらの伝説で「鬼」として描かれているのは、その時代の権力者にとって都合の悪い人たちで、「鬼」と表現して悪者扱いをしていたらしい。「鬼」は、外国では「魔女」として描かれている。多くの人が不当に魔女の嫌疑をかけられて、拷問や処刑などの被害を受けた「魔女狩り」もあったという。歴史が、そのときの権力者によって都合よく記されている事実を知ること、新しい時代には大切になってくるだろう。

2月は節分。「鬼は外、福は内！」の掛け声が通常だが、「鬼も内、福も内」のもいいのでは……。

自分の心の内に鬼も仏もあるように、陰陽あわせてもつ考え方が、人に優しく、他人と認めあえる世や、皆が求める社会をつくるとは思いますが、皆さまはいかがでしょう！

これからの時代のキーワードになってきそうです。

(編集委員 A・M)



みんなが主役！
明るく楽しくなる
保育現場の秘訣！



ほめ育シニアコンサルタント
中園 暁子氏

ブラッシュアップ② 考え抜く力 Thinking

いきなりですが、質問です。あなたがこれまで「考え抜いた」と言える決断やできごとは何ですか？「考え抜いた」と言える決断と「考え抜いたと言えない決断」では何が違いますか？

◆「考え抜く」とは

1日に4万〜6万回思考しているといわれる人間。「考える」ことは誰もができますが、「考え抜く」ことは誰にでもできることではないと思います。「考え抜く」にはさまざまな力が必要だからです。

「考え抜く」の「抜く」には「最後まで行動する」という意味が含まれます。「考え抜く」とは、ありとあらゆる場合や可能性を検討する。また、自分の心の内にある弱さや、恥ずかしかったり悔しかったりしたことをさらけ出し、向き合い、そのうえで何らかの選択・決断をし、行動することだと思つたのです。だからこそ、考え抜いた決断には、後悔がない場合が多いのではないのでしょうか。

この「考え抜く力」を、日常にも落とし込めれば、

もっと強くしなやかに、成長し続けられるのではないのでしょうか。

◆「日常に落とし込む」

まず二つのパターンから考えてみたいと思います。

ある会社の新入社員AさんとBさんは、入社後、仕事を覚えようと懸命に働きます。Aさんは、「早く仕事を覚えたい」「失敗しないように」と心掛けていました。一方、Bさんは、「この仕事は何につながっているのかな？」「どうすればもっと早くできるかな？」などと考えながら仕事をしました。入社して3年。Aさんは一通りの仕事ができるようになり忙しい毎日ですが、何となく同じ毎日で、仕事に面白みを感じられません。一方、Bさんは、一通り仕事ができるようになったことで、自分の得意・不得意が分かるようになってきました。また、一つひとつの仕事の必要性を考え、業務を見直し、提案するようになりました。さらに、社外の人との関わりが少なく視野の狭さなどの課題がある

と思ひ、勉強会に参加しはじめました。

入社して5年、Aさんは転職を考えています。今の仕事に不満はありませんが、自分にはもっとやりがいのある、自分にあつた仕事があると思つています。

Bさんは、業務改善などの実績が評価されて主任になり、会社のプロジェクトにも参加。充実した毎日を送つています。

これは、新人時代の私がモデルの「考えないAさん」と「考えるBさん」を分かりやすくした事例です(笑)。別の言い方をすると「問いをもって生きるかどうか」です。問いには大きく分けて二つあります。「興味関心からの問い」「自分自身への問い」です。

◆「問いをもって生きる」

Bさんの問いは、関心からの問いです。子どもは「なんで先生にはしわがあるん？」など、いろいろなことを無邪気に質問してきますよね。でも、そんな子どもたちも、いつの間にか聞くことを止め、疑問もたなくなり、大人になると「聞くのが恥ずかしい」と思う

ようになります。私たちは一体、どこで大切な力を失ってしまったのでしょうか。「自分自身への問い」が、「自分を成長させるための問い」かどうか大きなポイントです。「なんでこんなことを言つてしまったのか」と失敗を振り返る問いも必要ですが、「自分はどうかしたいのか」「どうなりたのか」と定期的に意識して問いかけたいものです。

自戒を込めて書きますが、私たちは、心のなかにふと沸きあがつた疑問や問いをもっと大切にせねばなりません。より深く考えるために日常のちょっとした疑問を逃さないことです。

◆「考え抜く力」

「考える力」の向こうにある「考え抜く力」。私たちは、考え抜く前にちょっと考えただけで「まあいいか」「しかたがない」とあきらめてしまつことが多いのかもしれない。毎瞬毎瞬「考え抜く」ことは難しいのですが、日々のなかで、本当はもっと考え抜くべきものがあるのではないのでしょうか。あたりまえと言われるもの

や自らに問いをもち、向きあつて考え抜き、選んだ決断で行動してみる。行動して出てきた問いを見逃さず、考え抜く。個の力が最大になる瞬間です。

チームで考えることも必要です。役職も勤続年数も関係なし。それぞれが問いをもち問いを投げかけ、個で考え抜いた意見を出す。課題解決や目的のためのあきらめない対話は、チームに新しい価値の創造をもたらすはず。仕事にもチームにも自分自身にも「考え抜く」をやり抜く人生に、悔いがあるわけがないと、私は思います。

◆最後に

年末、私はダウンし1週間仕事に行けない事態となりました。寝ながら思ったことは、身体のありがたみ。そして家族や仕事仲間のおりがたみ。皆さま、どうぞこの冬を無事に乗り切ってくださいませ。

次回は3月号で「ブラッシュアップ③チームで働く力Teamwork」をお届けします。

保育園・認定こども園をたずねて



吹田市

みんなが笑顔になれる保育を

万博れんげ保育園

保育所

万 博れんげ保育園は、万博公園の西側に2019年7月に定員99人で開園しました。

同園がめざしているのは、子ども、保護者、保育者の三者が笑顔になる保育園です。例えば運動会は、子どもたち

が見てすぐに「やりたい」と思え、練習なしでもでき、さらに親子で楽しめるような競技を採用しています。運動会では子どもと写真を撮れるので、保護者にも大変好評です。

保育者は、「本番でできるようにしなければ」と子どもにもプレッシャーをかけたり、気もちが向いていない子にやらせたりするのは無意味だと考えています。かけっこの順番も、「走りたい」と手をあげた子どもから順番に走ってもらうなど、子どもたちがのびのびとできるようサポートして

います。

また、運動会に向けて保育者は、限られたものだけを制作します。やるべき作業を最低限に抑えているため、保育者は、運動会の前日でも子どもに向きあうことに集中できるそうです。

「今後『子どもにとって』という視点と、職員の視点の両方から、子どもも保育者もわくわくするような保育計画を職員みんなで考えて、みんなが笑顔になれる保育を展開し続けていきます」と恵崎みどり園長先生



▲ のびのびとした遊びを大切にしています

松原市

子どもと保育者の個性を大切に

天美北保育園

保育所

天 美北保育園の園舎は、木とコンクリートで統一された、環境配慮型の保育施設です。

0、1、2歳児は、発達段階にあわせて半年ごとにクラス編成を変え、3歳児以上は、年齢の縦割りの合同保育を取

り入れています。田巻尚子園長先生は「子どもの個性や違いはもちろん、保育者の多様

性も大切にしています。保育に関わる私たち大人が、人間味を忘れず満たされることで、より良い環境を提示できると考えています」とおっしゃいます。

天美北保育園と連携する複合福祉施設 TERRAは、子どもが為替や料理、eスポーツなどを学べる施設です。また、悩みを抱える人も気軽に利用できます。

運営法人の社会福祉法人立青福祉会法人本部長の浦野雅代氏は「大

切なのは、制度がないからとあきらめず、課題を抱える人たちの問題を解決する仕組みを自分たちでつくり出すことです。TERRAは、施設・地域・保育者などのたくさんの方が、子どもたちのためにつくった気軽に立ち寄れる施設です。これは、従来の縦割り行政では実現できませんでした。変わるべきは子どもではなく、大人です。福祉に携わる者として、地域課題に前向きに取り組んでいきたいと思えます」とおっしゃいました。(編集委員 R・Y)

さんぽ

みかんの栽培と子育てを考える



「こたつにみかんは冬の風物詩だが、今年のみかんのできが悪いと聞く。しかし、当方の畑ではよく実り、収穫量もそれなりにあった。できの良い年・悪い年はあるが、例年、一定量は取れる。世話は最低限で、手間暇かけず、ほぼほつたらかしの状態だが、それが良いのかと納得している。

私の子育ても同じで、過保護にならず、見守る子育てで良いと思っていた。が、子どもが成長するにつれ、もうちよっと何かしてあげていたら、違う関わり方をしていたら、と顧みた。そのことを、子育てを一任していた妻に話すと、「何をいまさら」と言わんばかりの冬の寒風よりも厳しい視線が突き刺さった。何ごとも無かったように視線を外し、優しい甘味のみかんを味わいながら、こたつの温かさに感謝する。

(松の木保育園・H・M)